

添削ワークシート(自己PR文編 解答)

【1】【2】の解答を確認しましょう。

【1】以下の添削例を参照し、自分自身がどこまで添削できたか確認しましょう。

文言が完全に一致する必要はありません。

なお、第二段落の改行箇所は⑤です。4行～13行が第二段落でした。

【2】各段落の役割は以下の通りです。

- 第一段落(序論)：筆者が自己PRしたい内容を明確に述べる。
- 第二段落(本論①)：自己PRの根拠として、筆者の行動や計画を説明する。
- 第三段落(本論②)：自己PRの根拠として、筆者が起こした行動の成果を説明する。
- 第四段落(結論)：自己PRを踏まえて、進路や将来への展望を述べている。

【より詳しく学びたい場合・・・】

今回のワークで添削できなかった項目には、以下の課題・対策が想定されます。自身の課題を理解し、文章作成の訓練・対策を始めましょう。

【1】⑤～⑧、／【2】(段落の役割)

⇒ 原稿用紙の使い方や言葉の選び方など、基礎的な文章の書き方を学ぶことが必要です。

【1】②～④、⑨／【2】(自己PR文の段落構成)

⇒ 自己PRの要点や組み立て方など、自己PR文の考え方を学び、実際に記述する訓練が必要です。

※ワークシートの構成上、問題番号化されていない修正箇所もあります。あわせてご確認ください。



高校名	① 都立東京第一学園高校						
学年	3	年	クラス	2	組	出席番号	14
氏名	東京 太郎				問題番号	32	

自己PRを述べなさい。

私は、^②規則正しい生活を送るという目標に向けて計画を立てて行動する^③ことに努めました。この力は、^④家庭科の調理実習に遅刻した経験^⑤を契機に身に付けたものです。1年生の時に、家庭科の調理実習に遅刻をして、参加できないということがありました。得意教科だったため後悔したのですが、それ以前にも^⑥ギリギリの登校を繰り返していたことに気づきました。^⑦二度と再び同じ^⑧ミスをしたくないためには、^⑨短^⑩に早起きをするだけでなく、生活全体における^⑪時間^⑫を見直す必要があると考えました。そこで、規則正しい生活を目標にし、自分の行動を項目として書き出し、優先順位を付けていきました。^⑬また、^⑭順位の高い学習、部活動、睡眠などの所要時間を定め、その時間設定に沿って行動するという計画を立てました。計画に基づいて行動したことで、^⑮開始^⑯20分前の登校を維持できるようになり、時間の使い方にも余裕が出てきたため、興味のあるパン作りにも、家事の一環として^⑰取り組めるようにもなりました。^⑱当初の計画では想定しなかった行動^⑲ですが、時間を決めて行動することが身に付いていた^⑳から、所要時間を定めることで、生活の中に組み込むことができました。

現在では、パン作りへの取り組みが高じて製パンの仕事に^㉑就くという新しい目標を持っています。資格や技術など習得すべきこと^㉒がかなり多い分野ですので、^㉓長所を生かして努力します。

的確な計画を立てて行動することで、目標を達成していきます。

- <添削欄>
- ① 高校名は「東京都立 第一学園高等学校」と正式名称で記入します。
 - ② ～線部 自己PRとしては、内容が限定的すぎます。「規則正しい生活を送ること」だけが目標というわけではないので、表現に注意しましょう。
 - ③ 「～ことに努めました」と事実の報告で終わっています。自己PR文なので、最初に自分の良さをはっきり示しておきましょう。また、次の文の「この力」に対応して適切な表現にします。
 - ④ ～線部 次の文と重複する内容です。このような詳しい説明は、「本論」で述べます。詳細な説明をする
 - ⑤ ここから「本論」に入ります。段落変えしましょう。
 - ⑥ オノマトペ(擬態語、擬音語など)は使いません。
×「ギリギリ」→○「直前」
 - ⑦ 重複表現になります。「二度と」「再び」のどちらかを用的ようにします。
 - ⑧ カタカナ語の多用は避けます。述べたい意味や意図があいまいになります。文章の質を低めることにもなりかねません。
 - ⑨ ×誤字 この場合は、「単に」と表します。
 - ⑩ 接続詞の誤りです。前の文と続いているので、「または」を対比するのではなく「そして」のように並列の接続詞を用品います。
 - ⑪ この場合は、「始業」を用いるのが適切です。
 - ⑫ 算用数字は、1マスに2文字を入れます。半角扱いです。
 - ⑬ ×送り仮名の誤り ○「取り組める」
 - ⑭ 800字
 - ⑮ 1文の長さは40～60字以内におさめるようにします。1文で1つのことを述べるつもりで、簡潔にまとめます。
 - ⑯ 話し言葉ではなく書き言葉で表します。×「いたから」→○「いたので」「いたため」
 - ⑰ ×誤字 この場合は「就く」を用います。
 - ⑱ 話し言葉は避けます。この部分は「程度を表す副詞」になるので、削ります。
 - ⑲ 「長所を生かして～」のところを具体的に記す必要があります。自己PR文で大事なところです。

- ⑭ 1文の長さは40～60字以内におさめるようにします。1文で1つのことを述べるつもりで、簡潔にまとめます。
- ⑮ 話し言葉ではなく書き言葉で表します。×「いたから」→○「いたので」「いたため」
- ⑯ ×誤字 この場合は「就く」を用います。
- ⑰ 話し言葉は避けます。この部分は「程度を表す副詞」になるので、削ります。
- ⑱ 「長所を生かして～」のところを具体的に記す必要があります。自己PR文で大事なところです。
- ⑲ 文体を統一します。敬体(です・ます調)で書いているので、それに合わせます。「だった」は、常体(だである調)です。
- ⑳ 話し言葉は避けます。この部分は「程度を表す副詞」になるので、削ります。
- ㉑ ×誤字 この場合は「就く」を用います。
- ㉒ 話し言葉は避けます。この部分は「程度を表す副詞」になるので、削ります。
- ㉓ 「長所を生かして～」のところを具体的に記す必要があります。自己PR文で大事なところです。